

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ヨリウガクノホクカクシノカクワクノホクカク 国立大学法人香川大学								
フリガナ大学の名称	カクワクノホクカクノホクカク 香川大学大学院 (Graduate School, Kagawa University)								
大学本部の位置	香川県高松市幸町1番1号								
大学の目的	世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。								
新設学部等の目的	あらゆるライフステージにある人々の健康QOLの向上を目指し、健康に関連する学問分野との融合により看護を探究することで、生命・生活・人生に生じる様々な健康に関するイノベーションを起こすことに寄与し、高い倫理観・指導力をもつ看護実践者、教育・研究者を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 医学部看護学科 医学系研究科看護学専攻修士課程 14条特例の実施
	医学系研究科看護学専攻博士後期課程 (Graduate School of Medicine, Division of Nursing Science, Doctoral Course) 計	年	人	年次人	人	博士 (看護学)  (Doctor of Nursing Science)	年月 第1年次 令和4年4月 第1年次	香川県木田郡三木町 大字池戸1750番地1	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>令和4年4月名称変更予定 医学系研究科 看護学専攻（修士課程）→看護学専攻（博士前期課程）</p> <p>令和4年4月名称変更予定 工学研究科 安全システム建設工学専攻（博士後期課程）→安全システム建設工学専攻（博士課程） 信頼性情報システム工学専攻（博士後期課程）→信頼性情報システム工学専攻（博士課程） 知能機械システム工学専攻（博士後期課程）→知能機械システム工学専攻（博士課程） 材料創造工学専攻（博士後期課程）→材料創造工学専攻（博士課程）</p> <p>創発科学研究科創発科学専攻（130）（令和3年4月事前相談予定）</p> <p>法学研究科（廃止） 法律学専攻（△8） ※令和4年4月学生募集停止</p> <p>経済学研究科（廃止） 経済学専攻（△10） ※令和4年4月学生募集停止</p> <p>工学研究科博士前期課程（廃止） 安全システム建設工学専攻（△18） 信頼性情報システム工学専攻（△24） 知能機械システム工学専攻（△18） 材料創造工学専攻（△18） ※令和4年4月学生募集停止</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学系研究科看護学専攻博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	15単位			
		6科目	2科目	0科目	8科目				

教 員 組 織 の 概	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設 分	医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程）	10 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	33 (33)	令和3年3月意見 伺い 令和3年4月事前 相談予定
	創発科学研究科 創発科学専攻（修士課程）	116 (116)	63 (62)	14 (12)	0 (0)	193 (190)	0 (0)	17 (20)	
	計	126 (126)	67 (66)	15 (13)	0 (0)	208 (205)	0 (0)	— (—)	
既 設 分	教育学研究科 高度教職実践専攻 （専門職学位課程）	19 (19)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	48 (49)	
	医学系研究科 臨床心理学専攻 （修士課程）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	14 (14)	
	看護学専攻 （博士前期課程）	11 (11)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	10 (10)	
	医学専攻 （博士課程）	44 (44)	34 (34)	22 (22)	0 (0)	100 (100)	0 (0)	5 (5)	
	工学研究科 安全システム建設工学専攻 （博士課程）	9 (9)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
	信頼性情報システム工学専攻 （博士課程）	12 (12)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	
	知能機械システム工学専攻 （博士課程）	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
	材料創造工学専攻 （博士課程）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
	農学研究科 応用生物・希少糖科学専攻 （修士課程）	24 (29)	20 (20)	0 (0)	6 (6)	50 (55)	0 (0)	0 (0)	
	地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻 （専門職学位課程）	6 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	0 (0)	
	図書館	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	国際希少糖研究教育機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	
	大学教育基盤センター	1 (2)	6 (6)	0 (1)	0 (0)	7 (9)	0 (0)	0 (0)	
	アドミッションセンター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
	学生支援センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	キャリア支援センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	地域連携・生涯学習センター	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	
	四国グローバルリーガルセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	総合生命科学研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (5)	
微細構造デバイス統合研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
瀬戸内圏研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
情報メディアセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3)		
産学連携・知的財産センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		

要	インターナショナルオフィス		0 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (3)	0 (0)	0 (0)	
	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	計		157 (165)	118 (118)	36 (38)	7 (7)	318 (328)	0 (0)	－ (－)	
合計		283 (291)	185 (184)	51 (51)	7 (7)	526 (533)	0 (0)	－ (－)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		291 人 (291)		374 人 (374)		665 人 (665)			
	技 術 職 員		927 (927)		341 (341)		1,268 (1,268)			
	図 書 館 専 門 職 員		13 (13)		0 (0)		13 (13)			
	そ の 他 の 職 員		12 (17)		92 (92)		104 (109)			
計		1,243 (1,248)		807 (807)		2,050 (2,055)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	167,491㎡	0㎡		0㎡		167,491㎡			
	運 動 場 用 地	80,981㎡	0㎡		0㎡		80,981㎡			
	小 計	248,472㎡	0㎡		0㎡		248,472㎡			
	そ の 他	702,551㎡	0㎡		0㎡		702,551㎡			
	合 計	951,023㎡	0㎡		0㎡		951,023㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
		170,301㎡ (170,301㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		170,301㎡ (170,301㎡)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	96室	88室	662室	11室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 2人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		医学系研究科看護学専攻博士後期課程			15 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書	学 術 雑 誌		視 聴 覚 資 料	機 械 ・ 器 具	標 本	大学全体		
		[うち外国書]	[うち外国書]	電 子 ジャー ナ ル						
		冊	種	[うち外国書]						
医学系研究科看護学専攻博士後期課程	867,500 [267,227] (868,288 [267,227])	25,789 [7,449] (25,789 [7,449])	5,547 [4,161] (5,547 [4,161])	9,301 (9,301)	0 (0)	1,061 (1,061)				
計	867,500 [267,227] (868,288 [267,227])	25,789 [7,449] (25,789 [7,449])	5,547 [4,161] (5,547 [4,161])	9,301 (9,301)	0 (0)	1,061 (1,061)				
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		取 納 可 能 冊 数		大学全体		
		11,101㎡		808席		1,104,000冊				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポー ツ 施 設 の 概 要						
		5,577㎡		運 動 場 5 面		テ ニ ス コー ト 14 面				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 前 年 度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	国費による
		教員1人当り研究費等		－	－	－	－	－	－	
		共同研究費等		－	－	－	－	－	－	
		図 書 購 入 費	－	－	－	－	－	－	－	
	設 備 購 入 費	－	－	－	－	－	－	－		
	学生1人当り納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		－								

大学等の名称	香川大学							所在地	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
教育学部							1.03		
学校教育教員養成課程	4	160	—	640	学士(教育学)	1.03	平成15年度	香川県高松市幸町1番1号	平成30年より学生募集停止
人間発達環境課程	4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成15年度		
法学部 (昼夜開講制)							1.02		
法学科(昼)	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.06	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号	上段は昼間コース、下段は夜間主コース
法学科(夜)		10	—	40		0.42	平成15年度		
経済学部 (昼夜開講制)							1.04		
経済学科(昼)	4	240	3年次20	1,000	学士(経済学)	1.05	平成30年度	香川県高松市幸町2番1号	上段は昼間コース、下段は、夜間主コース
(夜)		10	—	40		0.83	平成30年度		
経済学科(昼)	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
(夜)		—	—	—		—	平成15年度		
経営システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
(夜)		—	—	—		—	平成15年度		
地域社会システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
(夜)		—	—	—		—	平成15年度		
医学部							1.01		
医学科	6	109	2年次5	679	学士(医学)	1.00	平成15年度	香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	平成30年度、令和2年度入学定員増による学年進行
看護学科	4	60	3年次10	260	学士(看護学)	1.05	平成15年度		
臨床心理学科	4	20	—	80	学士(臨床心理学)	1.01	平成30年度		
創造工学部							1.02		
創造工学部	4	330	3年次20	1,360	学士(工学)	1.02	平成30年度	香川県高松市林町2217番地20	
工学部							—		
安全システム建設工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成15年度	香川県高松市林町2217番地20	平成30年より学生募集停止
電子・情報工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		
知能機械システム工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		
材料創造工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		
農学部							1.03		
応用生物科学科	4	150	—	600	学士(農学)	1.03	平成18年度	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地	
既設大学等の状況									
教育学研究科 (修士課程)									
学校教育専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成15年度	香川県高松市幸町1番1号	令和2年より学生募集停止
教科教育専攻	2	—	—	—		—	平成15年度		



名称：附属高松小学校  
目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。  
所在地：香川県高松市番町5丁目1番55号  
設置年月：昭和24年5月  
規模等：土地22,298.47㎡，建物7,374.70㎡

名称：附属坂出小学校  
目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。  
所在地：香川県坂出市文京町2丁目4番2号  
設置年月：昭和24年5月  
規模等：土地13,075.09㎡，建物5,482.45㎡

名称：附属高松中学校  
目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。  
所在地：香川県高松市鹿角町394番地  
設置年月：昭和26年6月  
規模等：土地23,464.09㎡，建物5,482.22㎡

名称：附属坂出中学校  
目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。  
所在地：香川県坂出市青葉町1番7号  
設置年月：昭和24年5月  
規模等：土地11,505.15㎡，建物4,607.61㎡

名称：附属特別支援学校  
目的：知的障害者に対して小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行い、あわせてその能力に応じて社会的自立に必要な知識・技能を授けることを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。  
所在地：香川県坂出市府中町綾坂889番地  
設置年月：昭和50年4月  
規模等：土地10,804.34㎡，建物3,501.46㎡

名称：附属幼稚園  
目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。  
所在地：香川県坂出市文京町1丁目9番4号  
設置年月：昭和24年5月  
規模等：土地1,808.36㎡，建物768.58㎡

名称：附属幼稚園高松園舎  
目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。  
所在地：香川県高松市番町5丁目1番55号  
設置年月：昭和51年4月  
規模等：土地（※附属高松小学校団地内），建物431.80㎡

名称：附属教職支援開発センター  
目的：実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等地域社会の教育関係諸機関と連携・協働して、実地教育、教職支援及び教育開発の推進的役割を果たすことを目的とする。  
所在地：香川県高松市幸町1番1号  
設置年月：平成27年4月  
規模等：土地（※幸町団地内），建物539.09㎡

名称：特別支援教室「すばる」  
目的：①発達障害児（特別な教育的支援を必要とする子ども）の保護者や担任に対する相談と指導助言、②発達障害児への個に応じた指導・支援、③保護者や教員、各学校の特別支援教育コーディネーターへの研修、④地域における特別支援教育の推進方策に関する研究など、これらの事業を通じて地域における特別支援教育の充実に寄与することを目的とする。  
所在地：香川県坂出市青葉町2番7号  
設置年月：平成15年4月  
規模等：土地2,817.00㎡，建物1,103.78㎡

附属施設の概要

名称：香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション  
目的：瀬戸内圏研究の推進を行うとともに、学生の実験、実習指導を行うことを目的とする。

所在地：香川県高松市庵治町鎌野4511番地15

設置年月：平成21年4月

規模等：土地1,039.19㎡，建物488.60㎡

名称：香川大学総合生命科学研究センター  
R I 実験施設

目的：放射性同位元素による実験・研究・教育を行うことを目的とする。

所在地：香川県木田郡三木町池戸1750番地1

設置年月：平成6年2月

規模等：土地（※三木町医学部団地内），建物423.90㎡

名称：香川大学総合生命科学研究センター  
動物実験施設

目的：実験動物の飼育管理、系統維持等動物実験に関する研究支援を行う。

所在地：香川県木田郡三木町池戸1750番地1

設置年月：昭和61年3月

規模等：土地（※三木町医学部団地内），建物2,116.58㎡

名称：香川大学総合生命科学研究センター  
遺伝子実験施設

目的：ゲノム情報科学、組換えDNA実験、その他の遺伝子実験に関する研究及び教育を行う。

所在地：香川県木田郡三木町池戸2393番地

設置年月：平成13年3月

規模等：土地（※三木町農学部団地内），建物1,513.20㎡

名称：香川大学国際希少糖研究教育機構希少糖生産ステーション

目的：生産方法、生理機能、用途などの研究がほとんど進んでいない「希少糖」に関する独自の研究を進展させるとともに、外部機関との共同研究を推進することにより、地域の科学技術の発展と産業の振興に寄与し、希少糖に関する情報の収集・発信及び教育研究の充実を目的とする。

所在地：香川県木田郡三木町池戸2393番地

設置年月：平成15年10月

規模等：土地（※三木町農学部団地内），建物300.79㎡

名称：香川大学図書館

目的：学部・研究科が集めた膨大な量の学術資料や研究成果を地域の生涯学習資料として公開することを目的とする。

所在地：香川県高松市幸町1番1号

設置年月：昭和45年3月

規模等：土地（※幸町団地内），建物7,301.09㎡

名称：香川大学博物館

目的：香川大学の教育・研究において蓄積された標本、資料、発明品などの知的財産を収集、保管、展示し、地域の自然や文化に関して交流を広げ、香川大学と地域との連携を深めることを目的とする。

所在地：香川県高松市幸町1番1号

設置年月：平成20年3月

規模等：土地（※幸町団地内），建物245.00㎡

名称：香川大学情報メディアセンター

目的：学内情報基盤担当組織の役割を担うと共に、先進的な教育・研究拠点として大学と地域社会に貢献することを目的とする。

所在地：香川県高松市幸町2番1号

設置年月：昭和49年3月

規模等：土地（※幸町団地内），建物958.46㎡

名称：香川大学保健管理センター

目的：学生及び教職員の心身の健康増進や健康管理を目的とする。

所在地：香川県高松市幸町1番1号

設置年月：昭和43年3月

規模等：土地（※幸町団地内），建物399.19㎡

名称：香川大学医学部附属病院  
目的：良質な医療の提供、医学教育・研究の推進  
所在地：香川県木田郡三木町池戸1750番地1  
設置年月：昭和58年4月  
規模等：土地（※三木町医学部団地内）、建物72,191.66㎡

名称：香川大学農学部附属農場  
目的：学生への農場実習教育と教職員の研究及び栽培された作物の市場での販売等経営を行うことを目的としている。  
所在地：香川県さぬき市昭和字谷乙300番地2  
設置年月：昭和44年3月  
規模等：土地170,643.66㎡、建物6,522.24㎡

香川大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和3年度				令和4年度				
	入学 定員	編入学 定員	収容定員		入学 定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
香川大学								
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
学校教育教員養成課程	160	-	640	学校教育教員養成課程	160	-	640	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法学科(昼間コース)	150	10	620	法学科(昼間コース)	150	10	620	
(夜間コース)	10	-	40	(夜間主コース)	10	-	40	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科(昼間コース)	240	20	1000	経済学科(昼間コース)	240	20	1000	
(夜間コース)	10	-	40	(夜間主コース)	10	-	40	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	109	5	609	医学科	95	5	595	(※定員：政策に伴う増減あり)
		3年次				3年次		
看護学科	60	10	260	看護学科	60	0	240	
		3年次				3年次		
臨床心理学科	20	-	80	臨床心理学科	20	-	80	
創造工学部		3年次		創造工学部		3年次		
創造工学科	330	20	1360	創造工学科	330	20	1360	
農学部		3年次		農学部		3年次		
応用生物科学科	150	-	600	応用生物科学科	150	-	600	
		2年次				2年次		
計	1239	5	5249	計	1225	5	5215	
		3年次				3年次		
		60				50		
香川大学大学院								
教育学研究科				教育学研究科				
高度教職実践専攻(P)	20	-	40	高度教職実践専攻(P)	20		40	
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	8	-	16	法律学専攻(M)	0		0	令和4年4月学生募集停止
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	0		0	令和4年4月学生募集停止
医学系研究科				医学系研究科				
医学専攻(4年制D)	30	-	120	医学専攻(4年制D)	30		120	
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	16		32	
				看護学専攻(D)	2		6	専攻の設置(意見伺い)
臨床心理学専攻(M)	10	-	20	臨床心理学専攻(M)	10		20	
工学研究科				工学研究科				
安全システム建設工学専攻(M)	18	-	36	安全システム建設工学専攻(M)	0		0	令和4年4月学生募集停止
信頼性情報システム工学専攻(M)	24	-	48	信頼性情報システム工学専攻(M)	0		0	令和4年4月学生募集停止
知能機械システム工学専攻(M)	18	-	36	知能機械システム工学専攻(M)	0		0	令和4年4月学生募集停止
材料創造工学専攻(M)	18	-	36	材料創造工学専攻(M)	0		0	令和4年4月学生募集停止
安全システム建設工学専攻(D)	5	-	15	安全システム建設工学専攻(D)	5		15	
信頼性情報システム工学専攻(D)	7	-	21	信頼性情報システム工学専攻(D)	7		21	
知能機械システム工学専攻(D)	5	-	15	知能機械システム工学専攻(D)	5		15	
材料創造工学専攻(D)	5	-	15	材料創造工学専攻(D)	5		15	
農学研究科				農学研究科				
応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	応用生物・希少糖科学専攻(M)	60		120	
地域マネジメント研究科				地域マネジメント研究科				
地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	地域マネジメント専攻(P)	30		60	
				創発科学研究科				研究科の設置(事前相談)
				創発科学専攻(M)	130		260	
計	284		650	計	320		724	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤 科目	健康イノベーション概論	1前	1			○			2					兼2	オムニバス
	健康イノベーション研究方法論	1前	1			○			5					兼2	オムニバス 共同 (一部) ※演習
	医科学特論	1通		2		○								兼21	オムニバス 共同 (一部) ※実験
	希少糖科学特論	1通		1		○								兼9	オムニバス 共同 (一部)
	小計 (4科目)	—	2	3	0	—	—	—	7					兼33	
専 門 科 目	健康発達支援看護特講	1前		2		○			5						オムニバス
	地域ケアシステム創造看護特講	1前		2		○			5						オムニバス
	健康創造看護学演習	1後	4				○		10	4	1				オムニバス 共同
小計 (3科目)	—	4	4	0	—	—	—	10	4	1					
特 別 研 究	健康創造看護学特別研究	1・2・3通	6				○		10	4	1				
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—	—	—	10	4	1				
合計 (8科目)		—	12	7	0	—	—	—	10	4	1			兼33	
学位又は称号		博士 (看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位15単位以上 (基盤科目の必修科目2単位、基盤科目の選択必修科目1単位以上、専門科目の必修科目4単位、専門科目の選択科目2単位以上、特別研究6単位) を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。なお、基盤科目の選択科目のうち、医科学特論、希少糖科学特論から1単位以上を選択必修とする。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（医学系研究科看護学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康イノベーション概論	<p>（概要）実社会の課題を解決できるヘルスケアを創造するために、様々な学問分野において国内外で展開されている先駆的なケア開発やシステム開発研究における理論やその方法論について、最新の知見を得る。本科目では、まず看護における異分野融合研究の可能性を概観し、具体的なヘルスケアに貢献する応用技術に関する研究方法論、医療サービスのマネジメントに必要な経済学的視点から、医療におけるマーケティングに関する研究を捉え、さらにヘルスケアシステムを移植し、SDGs達成に貢献する研究について学び、工学的先端技術、経済学、教育学など異分野を融合して実現するヘルスケアの可能性を探究する。講義は、e-learningや集中講義で行われる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（3 前川 泰子／1回）</p> <p>1. 看護における異分野融合研究の可能性 （35 石丸 伊知郎／2回）</p> <p>2. ヘルスケアに貢献する応用技術に関する研究方法論 ・我が国の情報化施策の経緯と現状について知り、異分野を融合した先駆的研究に触れながら、ヘルスケア分野における最新のトピックや課題などを取り上げ、効果的で、かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供する技術と今後の展望について探究する。 ・AIのヘルスケア利活用の実際 ・ビッグデータを活用した個人の健康行動への応用 （34 藤村 和宏／2回）</p> <p>3. 行動経済学的視点から捉えた医療におけるマーケティングに関する研究の探究 ・「便益遅延性」という概念を通して、医療サービスの消費における顧客満足及び顧客参加に影響を及ぼす要因を探究する。 ・「便益遅延性」という概念を通じた医療や教育のサービス ・医療、教育におけるサービス消費において享受が期待される便益 ・経済学的視点から顧客満足、顧客参加に影響する要因の実証的探究 （10 芳我 ちより／2回）</p> <p>4. ヘルスケアシステムを移植し、SDGs達成に貢献する国際共同研究 ・アジア諸国のヘルスケアシステムの概観による、互恵性のある異分野融合共同研究開発 （3 前川 泰子／1回）</p> <p>5. 看護における健康イノベーション研究の可能性の展望</p>	オムニバス方式
基盤科目	健康イノベーション研究方法論	<p>（概要）実社会の課題を解決できるヘルスケアを創造するために、健康創造に資する研究に向けて多学門分野からの見識を取り入れ、個人及び集団の健康力を高めるケア開発や技術革新へ向けて、より高次の研究手法を修得する。具体的には、高い倫理スキルを基盤に、一般市民を含む人々の健康教育力向上とともにヘルス・イノベーションに寄与できる観察研究、介入研究、また国際的な場で発表するための手法を身に付けることで、方略的研究力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 山本 美輪／3回）</p> <p>1. ガイダンスおよび健康イノベーションにおける生命倫理 ・超高齢社会における高齢者問題やその家族が抱える倫理的問題、特にまだ治療やケアが確立されていない認知症高齢者やその家族が直面する倫理的問題についてその課題や解決策を研究的視点から探究する。 （40 川人（杉野本） 潤子／2回）</p> <p>2. ヘルス・イノベーションから捉えた、こころと態度及び尺度構成理論 ・こころと態度の測定技法、心理学測定の基本と応用を修得する。 （8 渡邊 久美／2回）</p> <p>3. 看護職による認知行動療法的アプローチの介入研究のプログラム開発と評価法 ・実際のCBT-Nについて講義及び演習を行い、効果検証についてはエビデンスレベルと臨床及び地域における活用可能性に着目しつつ、各自のフィールドでの健康課題について対象特性や場に応じたプログラム構築と研究デザインを設計し、相互評価する。 （2 藤井 豊／2回）</p> <p>4. 観察研究および実験研究から探究するヘルス・イノベーション ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行をモチーフにして、ウイルス感染症流行の疫学的解析や、ウイルス遺伝子解析による進化系統樹についての講義、演習を行い、感染症の流行と予防に関する研究手法を修得する。 （① 塩田 敦子／2回）</p> <p>5. 観察研究および実験研究から探究するヘルス・イノベーション ・母性・婦人科疾患の研究論文クリティックを通して、東洋医学の視点から課題解決を探究、東洋医学の視点を看護における健康イノベーション、ヘルスケアに活かす手法、また看護研究に活かす手法を創造する。 （41 Willey Ian David、5 谷本 公重／4回）（共同）</p> <p>6. 研究成果の国際的公表方法 ・研究成果を国際的な場で発表するために必要となる、英語文献講読とアカデミックライティング、国際学会におけるプレゼンテーション（Oral/Poster）法について修得する。</p>	オムニバス方式 共同（一部） 講義 10.5時間 演習 12時間

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	医科学特論	<p>(概要) 研究目的に合致した手法やその実践法との関連性を理解し、実研究に役立つ挑戦的知識や研究手法を修得する。講義は、大学院博士課程の共通科目として開講され、医学研究の基本的ストラテジーを幅広い研究領域でカバーして医科学特論授業が行われる(研究ストラテジー講義、基礎研究・橋渡し研究・臨床研究の演習及び実習)。そのストラテジーを実践する具体的研究手法として演習・実技指導セミナーと関連講義が行われる。</p> <p>講義 (オムニバス方式/全11回・・・8回を選択)</p> <p>(20 平野 勝也/1回) 蛋白質機能解析技術 (21 西山 成/1回) 臨床研究について (21 西山 成/1回) トランスレーショナル・リサーチの実際 (17 荒木 伸一/1回) 形態学・組織細胞化学アップデート (30 杉元 幹史/1回) 癌個別化医療に利用される解析技術 (38 岡田 仁/1回) 高速液体クロマトグラフ法: ビリルビン分析を中心とした (16 三木 崇範/1回) 研究手法としての形態学の基礎・組織定量・免疫組織化学 (20 平野 勝也/1回) 細胞シグナル伝達解析技術: 蛋白質リン酸化とカルシウムシグナル (25 竹崎 直子/1回) ヒトゲノムプロジェクト、他生物ゲノムプロジェクトの動向とその意義 (44 呉 哲彦/1回) 成長因子、生体内吸収材料を応用した再生医療 (26 神島 成弘/1回) タンパク質の3次元構造解析とその応用</p> <p>実験実習 (実験手技指導セミナー17のテーマから1つ選択)</p> <p>(16 三木 崇範) STEREOLOGYによる形態計測 (18 山本 融) 病態解析用モデル動物の作成と利用 (39 宮下 武憲) 細胞のイオン輸送とリアルタイムで定量するパッチクランプ法 (22 上野 正樹) 電子顕微鏡を使った実験の進め方 (28 大日 輝記) 蛍光抗体法の解釈と実際 (38 岡田 仁、29 日下 隆) (共同) HPLCの臨床応用・近赤外分光法の臨床応用</p> <p>(19 藤原 祐一郎) 発現系を用いた膜蛋白質の機能解析 (42 宇山 徹) 脂質代謝酵素の性状解析 (26 神島 成弘) 3次元分子モデリングの手法を用いたタンパク質・リガンド相互作用の解析 (25 竹崎 直子) DNA塩基配列データ解析 (21 西山 成) in Vivoイメージングによる病態解析 (43 小原 英幹) 消化器癌における細胞周期 (30 杉元 幹史) CD-DST法による抗がん剤感受性試験 (31 鈴間 潔) 糖尿病網膜症の分子メカニズム (33 村尾 孝児) 細胞への遺伝子導入法 (23 星野 克明) フローサイトメトリーの原理と実際 (24 平尾 智広) 生物統計学への招待</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部) 講義 12時間 実験-実習 24時間</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	希少糖科学特論	<p>(概要) 香川大学が開発し、香川県の地域資源と認定されている希少糖は、機能性を持つ糖質として、食品、医療・看護、農業、工業などへの幅広い応用性がある。健康機能面で、機能性食品・甘味料としての生活習慣病の予防や、デンタルヘルス向上などが期待でき、看護・介護や保健衛生領域への展開も可能である希少糖の基礎知識や応用展開、国際展開等を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(45 何森 健/1回) 希少糖とは、希少糖の生産、イズモリング</p> <p>(36 秋光 和也/1回) 希少糖と植物</p> <p>(46 早川 茂/1回) 希少糖と食品</p> <p>(29 日下 隆、48 渡辺 力太郎/1回) (共同) 希少糖の産学連携とイノベーション</p> <p>(47 徳田 雅明/1回) 希少糖の健康機能1 (全般、D-アロース)</p> <p>(27 南野 哲男/1回) 希少糖の健康機能2 (D-アロース、D-アロース)</p> <p>(32 星川 広史/1回) 希少糖の健康機能3 (D-アロース)</p> <p>(37 新井 明治/1回) 希少糖の健康機能4 (D-タガトース、他の希少糖)</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
専門科目	健康発達支援看護特講	<p>(概要) あらゆる発達段階(成人・老年・母性・小児)・健康レベルにある人々の健康課題を的確に把握し、ヘルスケアの発展に関連する各領域(成人・老年・母性・小児・疾患)の最新トピックスを踏まえたうえで、生命・生活・人生の質向上を支援する看護モデルと援助技術のエビデンス、さらに治療やケアの標準化の考え方を学修する。その上で、臨床現場の実態および看護ケアの質向上に向け、科学的な視点から分析し、健康寿命の延伸に寄与できる、新しい看護ケアの開発と理論開発による健康課題解決の可能性を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 市原 多香子/3回) 成人看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界 ・国内外の研究論文クリティークを通して、療養患者の健康力向上、重症化予防の視点から健康課題を整理し、その解決に向けた研究の方向性を探究する。</p> <p>(7 山本 美輪/3回) 老年看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界 ・国内外の研究論文クリティークを通して、高齢者やその家族のQOLを支える視点から健康課題を整理し、その解決に向けた研究の方向性を探究する。</p> <p>(2) 川田 紀美子/3回) 母性看護学・助産学で活用されている理論・アプローチ動向と限界 ・国内外の研究論文クリティークを通して、次世代を産み育てる存在としての人間の健康課題について整理し、その解決に向けた研究の方向性を探究する。</p> <p>(5 谷本 公重/3回) 小児看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界 ・国内外の研究論文クリティークを通し、胎児から若年成人までの切れ目ない医療・保健・福祉の支援、健康力向上に向けた研究の方向性を探究する。</p> <p>(1) 塩田 敦子/3回) 生命科学の発展によって生じた出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療等に存在する生殖生命倫理に関する課題について、正解の見つけにくい問いの前で考え続けることをやめなため基礎知識を身につける。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 業 概 要			
（医学系研究科看護学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域ケアシステム創造看護特講	<p>（概要）超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会における次世代ケアシステムの構想として、既存の制度やインフラに依存しすぎることなく、その地域独自の自助、互助、共助を基盤とする保健・医療・福祉・生活を有機的に連携させた革新的な仕組みの開発が期待される。在宅を支える行政サービスの理解を深めた上で精神障害や認知症、子どもから高齢者まで、あらゆる健康レベルの人を対象として、その生活に着目し、感染症等の視点を含め、公衆衛生的な観点にまで知識を深め、次段階の思考に向かうための具体的方法や要素（連携あるいは協働システム開発、人材育成、ネットワーク構築等）について、多角的に探究する。その実現に向けて、文献検討・先行研究リサーチを通して、各専門領域におけるシステムづくりに必要となる理念、研究方法論に関する検討を行い、そのアウトカム評価に関する多様な研究デザインのあり方について探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（9 松本 啓子／3回） User Needs Algorithmを用いた行政サービスプログラムの開発に向けた、社会情勢および研究の潮流を踏まえる。そのうえで具体的方法論について、多角的に探究する。</p> <p>（8 渡邊 久美／3回） 精神障害者および就労弱者の就労支援モデルを可視化するため、企業と福祉の連携の実際について、文献検討及び、障害者就労の現地においてフィールドワークを行い、精神障害者の就労支援モデルの可視化のプロセスとそのアウトカム評価に関する研究の展開について、多角的に探究する。</p> <p>（3 前川 泰子／3回） 地域行政のサービスシステムに求められている取り組み、Information and Communication Technology (ICT)を用いた認知症やその学習教材開発の検討から、超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会の課題解決に向けた研究デザインについて、多角的に探究する。</p> <p>（2 藤井 豊／3回） 行政の制度や精神疾患その他の状況を踏まえた上で、すべてに影響を与える感染予防対策状況の理解は重要である。インフルエンザウイルスおよび新型コロナウイルスの研究論文を用い、ウイルスの増殖や感染症の流行を阻止といった課題解決を探究する。</p> <p>（10 芳我 ちより／3回） 行政の制度や地域でのケアの現状を研究的にも概観したうえで、公衆衛生看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界等、国内外の研究論文クリティークを通して、健康課題を整理し、その解決に向けた研究の方向性を探究する。</p>	オムニバス方式
	健康創造看護学演習	<p>（概要）社会的実装を可能とする研究実施のため、あらゆるライフステージの人々を支援する専門・実践的取組等による知見を基盤とし、それぞれの探究する発達・健康課題を国内外の文献検討・先行研究リサーチを通して、取り組むべき革新的な研究課題を明確化することが必要である。したがって、本演習では命のめばえから生涯にわたる人々へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。研究の実践活動の一環として、探究する領域の医療・福祉サービス提供機関等での多職種連携による現場研修を含め、さらに研修会や学術集会・研究会等への参加を行う。自己の研究課題の精選、および課題解決に向けた研究者や実践家とのディスカッションを通して見聞を深めることで、自己の研究課題をより明確化して取り組む。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（① 塩田 敦子、2 藤井 豊、3 前川 泰子、4 市原 多香子、5 谷本 公重、② 川田 紀美子、7 山本 美輪、8 渡邊 久美、9 松本 啓子、10 芳我 ちより、③ 筒井 邦彦、④ 西村 亜希子、⑤ 野原 留美、⑥ 辻 京子、⑦ 金正 貴美／5回）（共同） ガイダンス：学生の看護実践の課題候補の抽出 フィールドワーク準備 ・国内外のフィールドワークの場所と方法の決定交渉 ・活動計画の立案：目標設定、具体的方法とスケジュール立案、活動 ・計画の倫理性検討、系統的評価方法の検討</p> <p>（① 塩田 敦子、2 藤井 豊、3 前川 泰子、4 市原 多香子、5 谷本 公重、② 川田 紀美子、7 山本 美輪、8 渡邊 久美、9 松本 啓子、10 芳我 ちより、③ 筒井 邦彦、④ 西村 亜希子、⑤ 野原 留美、⑥ 辻 京子、⑦ 金正 貴美／20回）（共同） フィールドワーク実施、フィールドワーク型研究活動の成果発表 フィールド：本学医学部附属病院及び関連病院、四国こどもとおとなの医療センター、香川県内小中学校、香川県内自治体、中四国内訪問看護ステーション・介護福祉施設、香川県内精神障害者家族会、香川小児がん家族会、当事者支援グループ・就労継続支援施設、協定校（タイ、チェンマイ大学等）、研修会・学術集会・研究会</p> <p>（① 塩田 敦子、2 藤井 豊、3 前川 泰子、4 市原 多香子、5 谷本 公重、② 川田 紀美子、7 山本 美輪、8 渡邊 久美、9 松本 啓子、10 芳我 ちより、③ 筒井 邦彦、④ 西村 亜希子、⑤ 野原 留美、⑥ 辻 京子、⑦ 金正 貴美／5回）（共同） 研究計画書作成 ・自己の研究課題の明確化、研究デザインの検討、研究方法の検討、データ分析の方法、研究倫理の検討、研究計画書の作成</p>	オムニバス方式 共同

授 業 科 目 の 概 要			
（医学系研究科看護学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	健康創造看護学特別研究	<p>（概要）地域における革新的な看護の創造から健康への探究を深めるために、発達段階や健康レベルに応じたケア方法やケアシステムの開発を目指した研究活動を実施し、博士課程に相応しい研究成果物を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画の精練化。</li> <li>・研究倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行う。</li> <li>・収集したデータの分析を行い、博士課程に相応しい研究成果物を作成する。</li> </ul> <p>（4 市原 多香子） 【療養患者の回復支援に関する研究】健康寿命の延伸の視点から、療養患者の健康課題を査定し、回復促進・重症化防止・ヘルス教育等に関する看護ケアを拓く研究課題を選定し、新たな研究手法へのチャレンジを検討しながら、臨床との連携・協働による研究手法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう研究指導を行う。</p> <p>（7 山本 美輪） 【高齢者やその家族のQOL向上支援に関する研究】超高齢社会における高齢者問題やそれに伴う倫理的課題、また高齢者やその家族が抱えるニーズを量的・質的データより明らかにし、エビデンスに基づく創造的ケアやシステムの開発を探究できる研究指導を行う。</p> <p>（5 谷本 公重） 【小児の成育支援に関する研究】少子化社会における様々な発達段階・健康レベルにある小児の健全な成育を支援するためのケアアプローチの構築、健康教育支援方法の開発を導く研究課題を選定し、様々な研究方法の可能性を検討のうえ、創造性、独創性を備えた研究論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>（① 塩田 敦子） 【ライフサイクルからとらえた女性の健康を支援する研究】思春期における性教育、月経前症候群・困難症、成人期における婦人科がん検診の啓蒙活動、不妊症と妊娠褥婦のメンタルヘルスの不調、子育ての悩み、更年期におけるうつ、慢性疼痛など、現代社会に生きる女性たちの健康課題を選定し、新たな解決方法を創造し探求する。加えて、漢方薬が看護学教育モデル・コア・カリキュラムに明記されるなど、看護教育の中で漢方教育が普及しつつあるなか、漢方、鍼灸の知恵は健康課題の解決に向けたセルフケアの方法を創造し得る。エビデンスにつながる研究方法について吟味し、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>（② 川田 紀美子） 【母子の健康向上支援に関する研究】周産期をめぐる国内外の現状と課題の分析から母子とその家族における健康課題を取り上げ、母子のQOL向上のための妊娠期ケア構築や、ヘルスプロモーションにおける母子関係の重要性について統計的手法を用いて探求する。また、中国や他のアジア地域の研究者との共同研究を通じて、国際的視野に立った周産期ケアに関するエビデンスの構築を目指す。学生が自己の興味を研究課題として明確に定義し、課題解決のための一連の研究プロセスを有意義に辿り、研究結果を社会に提言できるように研究指導を行う。</p> <p>（2 藤井 豊） 【ウイルス感染症の流行に関する研究】ウイルス感染症の流行を、血清疫学的調査あるいは検体採取により捉え、基礎医学の視点から解析を行う。感染症の予防や流行阻止に繋がるテーマを設定し、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>（3 前川 泰子） 【基礎看護学からの応用・創造的アプローチに関する研究】実社会のヘルスケアに関する課題に対して、様々な学問分野の技術を自由な発想で応用し、課題解決につながるヘルスケアシステムの開発・構築に取り組む。開発研究における研究デザイン、アウトカムの利活用、多角的な評価など検討し、さらなる発展につながるよう研究指導を行う。</p> <p>（9 松本 啓子） 【在宅療養者とその家族のための支援に関する研究】在宅療養者とその家族のQOLの視点から、社会情勢を踏まえた上で、地域包括ケアシステムにおける行政のサポートシステムや支援体制の現状、エビデンスによる看護実践について多面的に文献検討を行う。在宅で療養者やその家族がその人らしく暮らすための課題を、そこで起こっている現象や看護方法、環境等の要因から検討し、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>（8 渡邊 久美） 【精神障害者のリハビリ支援に関する研究】精神看護の立場から精神障害当事者やその家族を支援するための地域ケアシステムにおける課題を、行政や多機関、多職種連携の実践から探求し、支援体制の現状に関するヒヤリングや多面的からの文献検討を行い、研究的に取り組むテーマを設定する。当事者やその家族の自立やリハビリを促進することのできる看護方法を多角的に検討し、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>（10 芳我 ちより） 【小児期からの生活習慣病予防に関する研究】健康寿命の延伸を目指し、小児期からのヘルスプロモーションを推進するために、必要なエビデンスを構築するための研究を遂行する。理論的基盤として、ライフコースアプローチやDOHaD学説などを理解し、疫学を主とした研究手法を活用して、社会的実装を可能とする研究成果を産出する。</p> <p>（③ 筒井 邦彦） 【生活習慣病予防・進行阻止に関する研究】生活習慣病の発症・進行について、血液検査や超音波検査等の画像検査をもとに、検査診断学の視点から解析を行う。生活習慣病の発症予防のための健康増進手段や、発症後の進行阻止に繋がるテーマを設定し、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>（⑥ 辻 京子） 【児童虐待リスクに関する研究】健康危機管理を一次予防の視点から取り組む方策の検討、児童虐待リスク提言に向けた質的研究など、社会学的アプローチを取り入れた課題解決のための研究をもとに、研究テーマの設定や研究方法、データ収集、フィールドの開拓など、研究遂行のための指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(④ 西村 亜希子) 【生活習慣病の発症・重症化予防、健康行動の支援に関する研究】糖尿病をはじめとした生活習慣病の発症・重症化予防のための看護ケア・ケアシステムの開発、健康行動を支援する自己管理用デバイス、アプリケーションソフトウェア、セルフモニタリング機器等のICTや先進的技術を看護へ活用するための研究を行う。独立した研究者として活動するための準備期間として、研究テーマの立案、問題解決のための研究計画、フィールド開拓を含めた臨床や他の研究者との協働など、研究遂行のための指導を行う。</p> <p>(⑤ 野原 留美) 【妊娠前からの女性の健康と妊娠期から育児期の家族支援に関する研究】妊娠期から子育て期の母子とその家族の健康、新たな家族の関係性構築に向け、妊娠前からの女性の健康とセルフケアに視野を広げ、支援方法を発展させる。そのための研究課題の選定、および助産学、家族社会学、家族心理学の理論を活用し、質的研究法及び量的研究法を駆使して課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>(⑦ 金正 貴美) 【人間のComfortを促進し健康QOLを高める看護ケアに関する研究】がん患者の情報ニーズに関連したComfort(心地よさを実感している状態)を促進する支援プログラムの開発、筋萎縮性側索硬化症患者の病状進行期における身体ケア、進行がん患者の安楽な移動動作を獲得するプロセスに関する研究などを通して、健康医療福祉システム、看護実践、倫理的問題の課題を探究する。患者やその家族の健康生活を創造し支援するために必要な概念の分析、根拠に基づき全人的に解決する新たな方策の開発と評価など課題解決に有用な研究指導を行う。</p>	